

【ワークショップ】 真正で探究的な学びを実現する パフォーマンス課題とは

2017・2018年改訂の学習指導要領のもとでは、「資質・能力のバランスのとれた学習評価」を行なっていくために、パフォーマンス評価を取り入れることが推奨されています。教科書においてもパフォーマンス評価と呼べるような課題が掲載されるようになっていきます。一方で、実際にパフォーマンス課題を実施しようとすると、難しさを感じる先生方も多くおられるかもしれません。

本ワークショップでは、最初に全体会でパフォーマンス課題の考え方を確認した上で、各分科会（国語、理科、社会）に分かれて真正で探究的な学びを実現するパフォーマンス課題の実践の進め方について、小学校の事例をもとにワークショップ形式で探ります。また、現在、E.FORUMがTOPPAN株式会社と共同で開発しているデジタル・コンテンツについてもご紹介します（※）。

会場：京都大学本部構内 総合研究 3号館（受付・全体会）
総合研究 4号館（ワークショップ）

対象：学校の先生方、教育委員会関係者、教員志望の学生
（先着 100名程度）

プログラム：

13:00～13:45 全体会

趣旨説明 松下 佳代（京都大学大学院教育学研究科 教授）

「4教科におけるパフォーマンス課題を生かしたデジタル・コンテンツと評価手法の開発」

奥村 好美（京都大学大学院教育学研究科 准教授）

水越 駿（TOPPAN株式会社）

14:00～16:00 ワークショップ（国語科・理科・社会科より選択）

「国語のパフォーマンス課題づくり、初めてのその次」

【講義室（共通 4）】

森本 和寿（大阪教育大学 特任講師）・池住 祐亮（大阪教育大学附属池田小学校 指導教諭）

「理科におけるパフォーマンス課題とルーブリック」

【講義室（共通 2）】

大貫 守（愛知県立大学 准教授）

「子どもたちが動き出すとき——魅力的な社会科パフォーマンス課題を探る」【講義室（共通 1）】

若松 大輔（弘前大学 助教）

8/21（水）

13:00-16:00

（12:30- 受付）

参加費
無料

【お問合せ】

京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM 事務局
e-forum@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

※デジタル・コンテンツ開発、並びに本ワークショップは、内閣府によるSIP（戦略的イノベーション創造プログラム）の課題「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」における研究開発「真正で探究的な学びを実現する教育コンテンツと評価手法の開発」（研究開発責任者：松下佳代）の一環として行っています。

「国語のパフォーマンス課題づくり、初めてのその次」

「パフォーマンス課題、取り入れてみたら子どもは喜んでくれているけど、これって教科書の章末問題と何が違うの?」というの「パ課題あるある」です。小学校国語は活動型の授業が多いですから、単に活動型の課題を取り入れるだけでは「物足りなさ」が残ります。今回は、初めてパ課題やってみたという第一歩目に伴う「物足りなさ」を超えるために、「初めてのその次(Second Step)」について、私と一緒に実践をつくっている小学校の先生のお声も交えながら考えてみます。

受講者へのメッセージ

Second Stepと言っていますが、パフォーマンス課題づくり未経験の先生にも、次のステップの見通しを立て「あるある」のつまずきを超えられるものになれば幸いです。「どなたもどうかお入りください。決してご遠慮はありません。」



もりもと かずひさ
森本 和寿

大阪教育大学 特任講師

「理科におけるパフォーマンス課題とルーブリック」

本ワークショップでは、小学校5年生の理科の単元「電流が生み出す力」におけるパフォーマンス課題とその取り組みの質をみとめるためのルーブリックづくり方策について学びます。実際に小学校5年生が取り組んだパフォーマンス課題を受講生自身が体験しつつ、その背景にある単元設計の理論やワークショップにおける実践を往還しながら、パフォーマンス課題の理論や実践に関する理解を深めることを目的としています。

受講者へのメッセージ

小学校5年生に戻ったつもりで、実際に受講生同士で協働しながらパフォーマンス課題の解決に取り組んでみませんか。楽しい考えが受講生の中から生まれることを楽しみにしております。



おおめき まもる
大貫 守

愛知県立大学 准教授

「子どもたちが動き出すとき

——魅力的な社会科パフォーマンス課題を探る——

パフォーマンス課題は、評価課題であると同時に、現実的には学習課題の役割を担う場合も多くあります。そのため、魅力的であればあるほどよいはずですが、では魅力的な課題とはどのようなもののでしょうか?このワークショップでは、小学校第5学年の産業学習を例に取りながら、パフォーマンス課題づくりの際に直面する論点を提示します。その上で、参加者のみなさんと一緒に「魅力的な社会科パフォーマンス課題とはどのようなものか?」を探りたいと思います。

受講者へのメッセージ

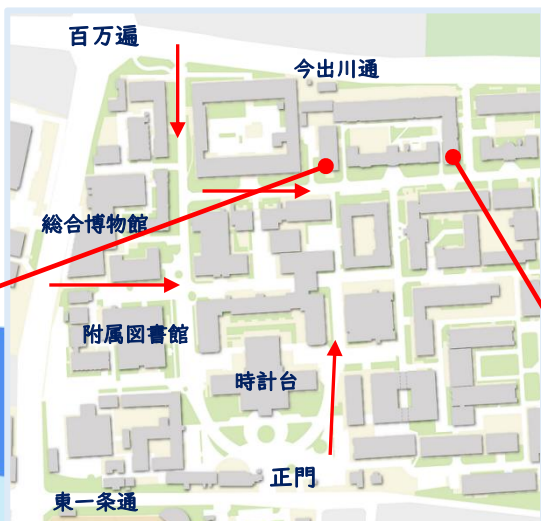
私も「魅力的な社会科パフォーマンス課題とはどのようなものか?」という問いに「答え」をもっていません。困っています。みなさんの「実践の知恵(the wisdom of practice)」を拝借したいです。



わかまつ だいすけ
若松 大輔

弘前大学 助教

アクセス



総合研究3号館

(受付・全体会)

総合研究4号館

(ワークショップ)

お申込み

下記のQRコードより
お申込みください。

申込締切:7月25日(木)

※定員になり次第締め切ります。

